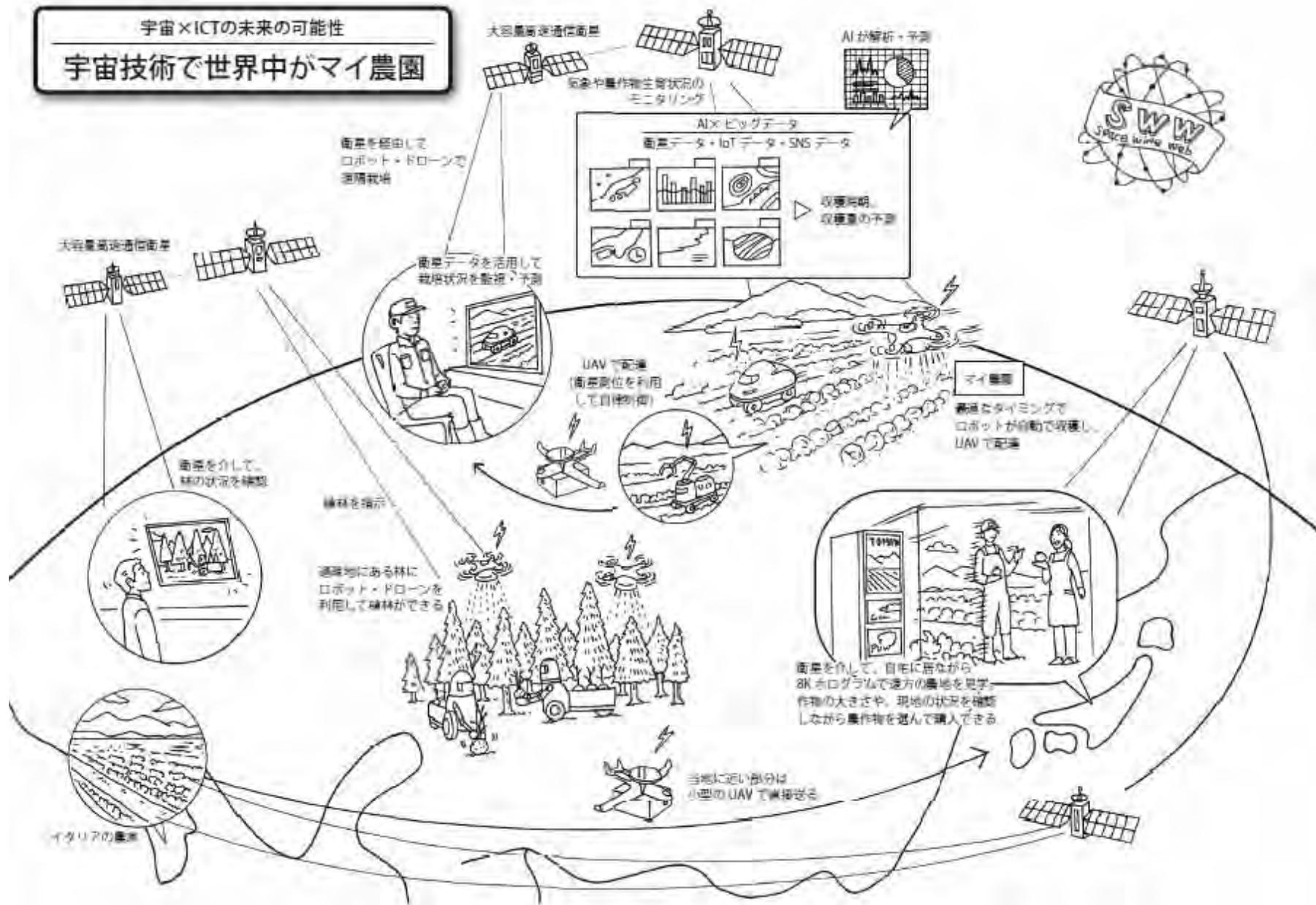


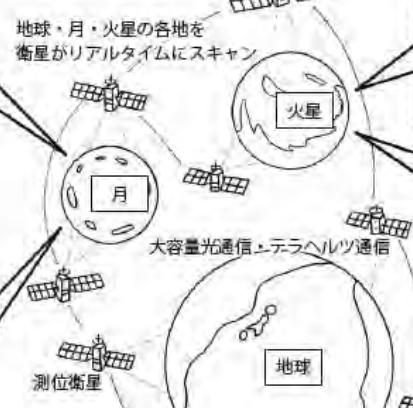
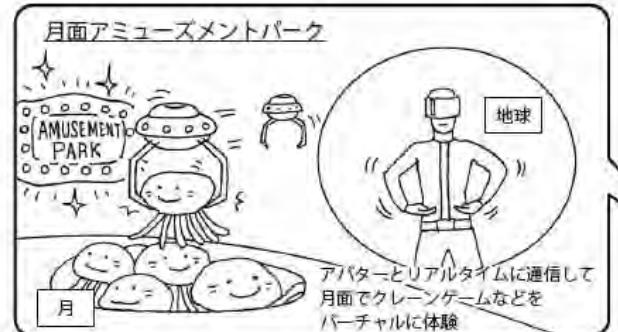
宇宙技術で世界中がマイ農園



宇宙でエンタメ・スポーツ・観光が変わる

31

宇宙×ICTの未来の可能性 宇宙でエンタメ・スポーツ・観光が変わる



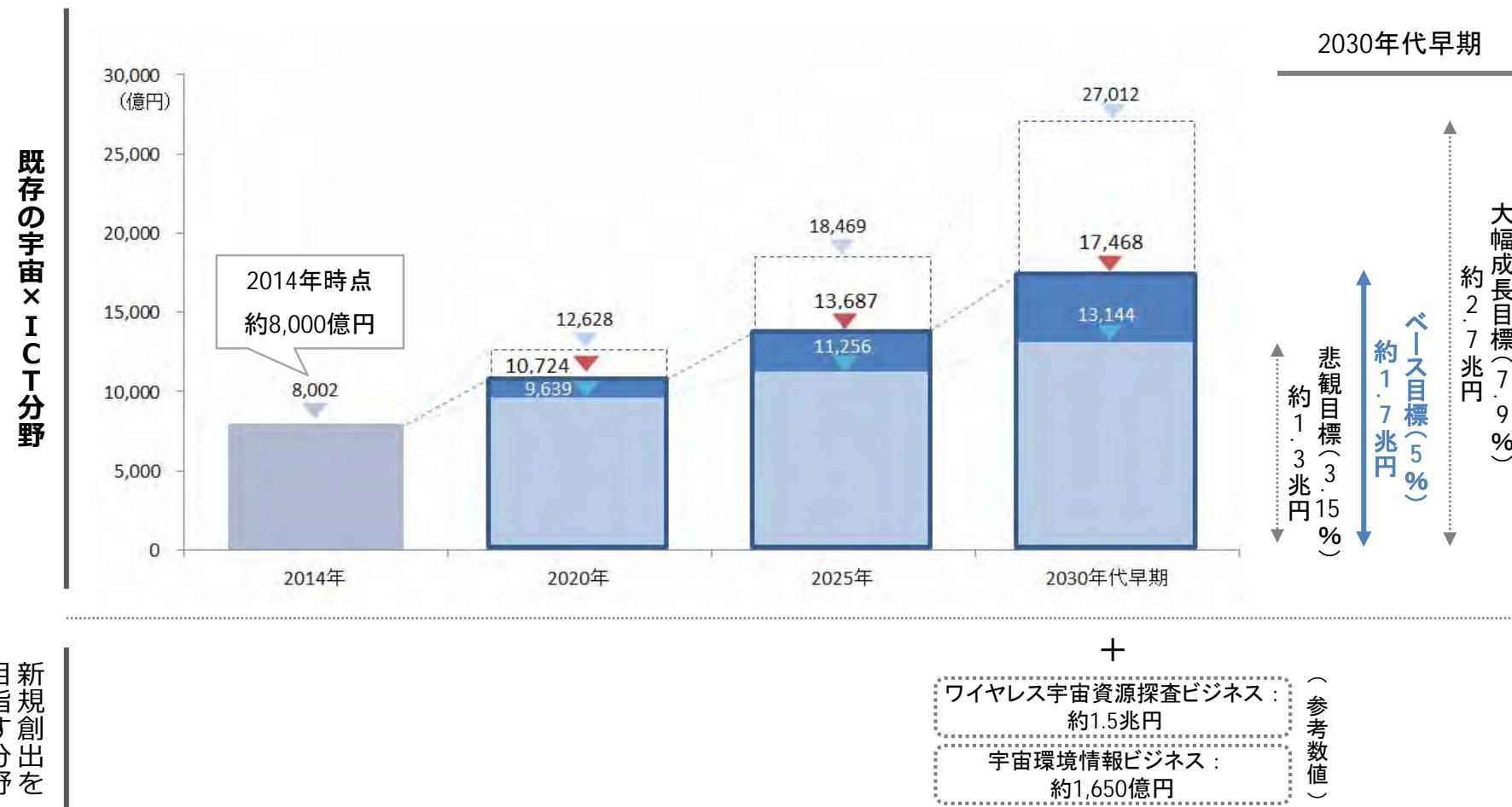
宇宙×ICT市場将来目標 (2030年早期)

32

- 既存の宇宙×ICT分野は、2030年代早期において、ベースとなる将来目標を約1.7兆円と想定する。
- 2030年代早期まで緩やかな成長だった場合は約1.3兆円、大幅な成長となった場合は約2.7兆円の将来目標が想定される。
- 新規市場である「ワイヤレス宇宙資源探査ビジネス」は約1.5兆円、「宇宙環境情報ビジネス」は約1,650億円の市場が、潜在的な将来目標として想定される。

宇宙×ICT分野の将来目標 (2030年代早期)

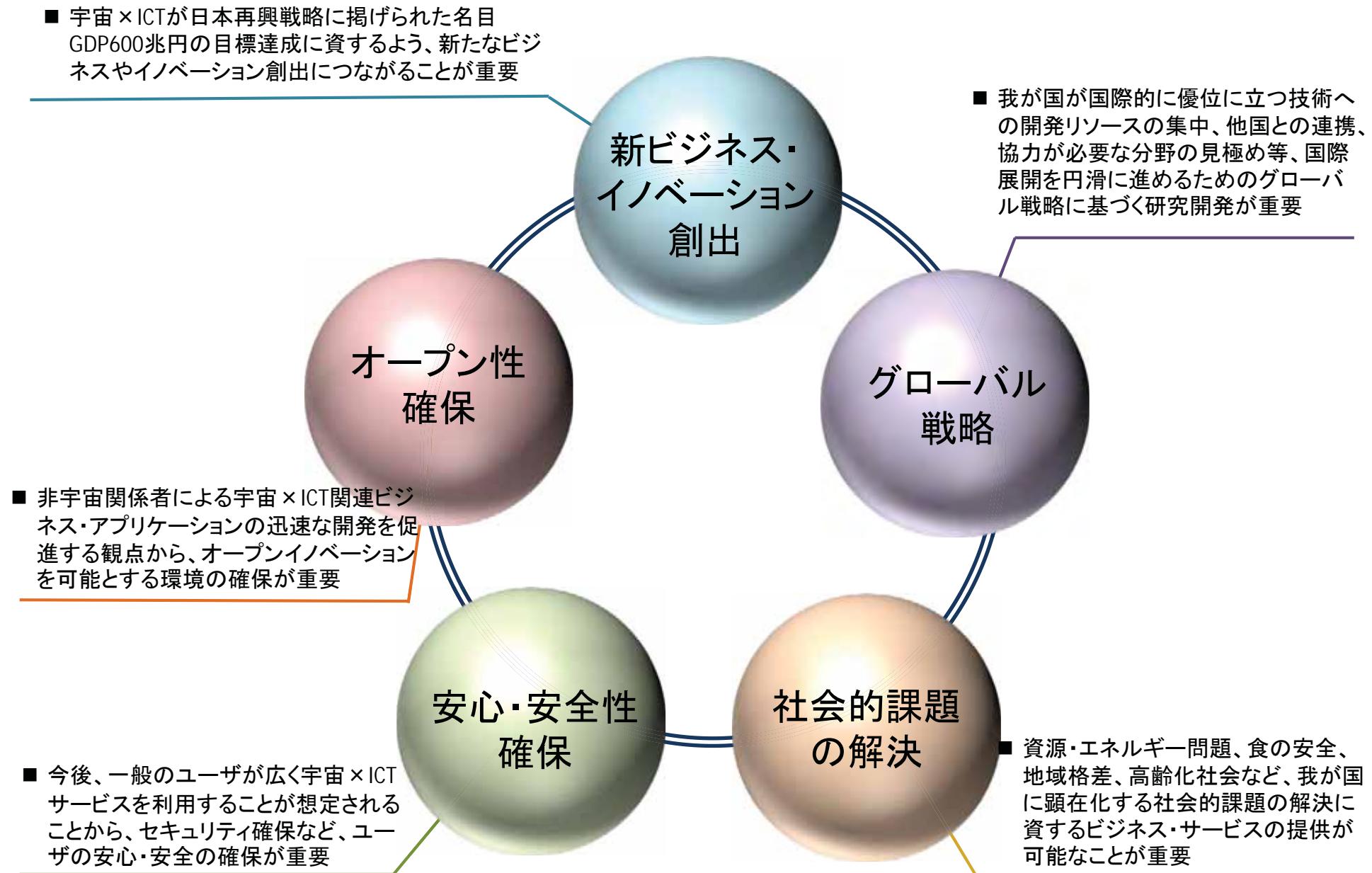
※ブロードバンド衛星通信ビジネス、宇宙データ利活用ビジネスを合算した数値を記載



第5章

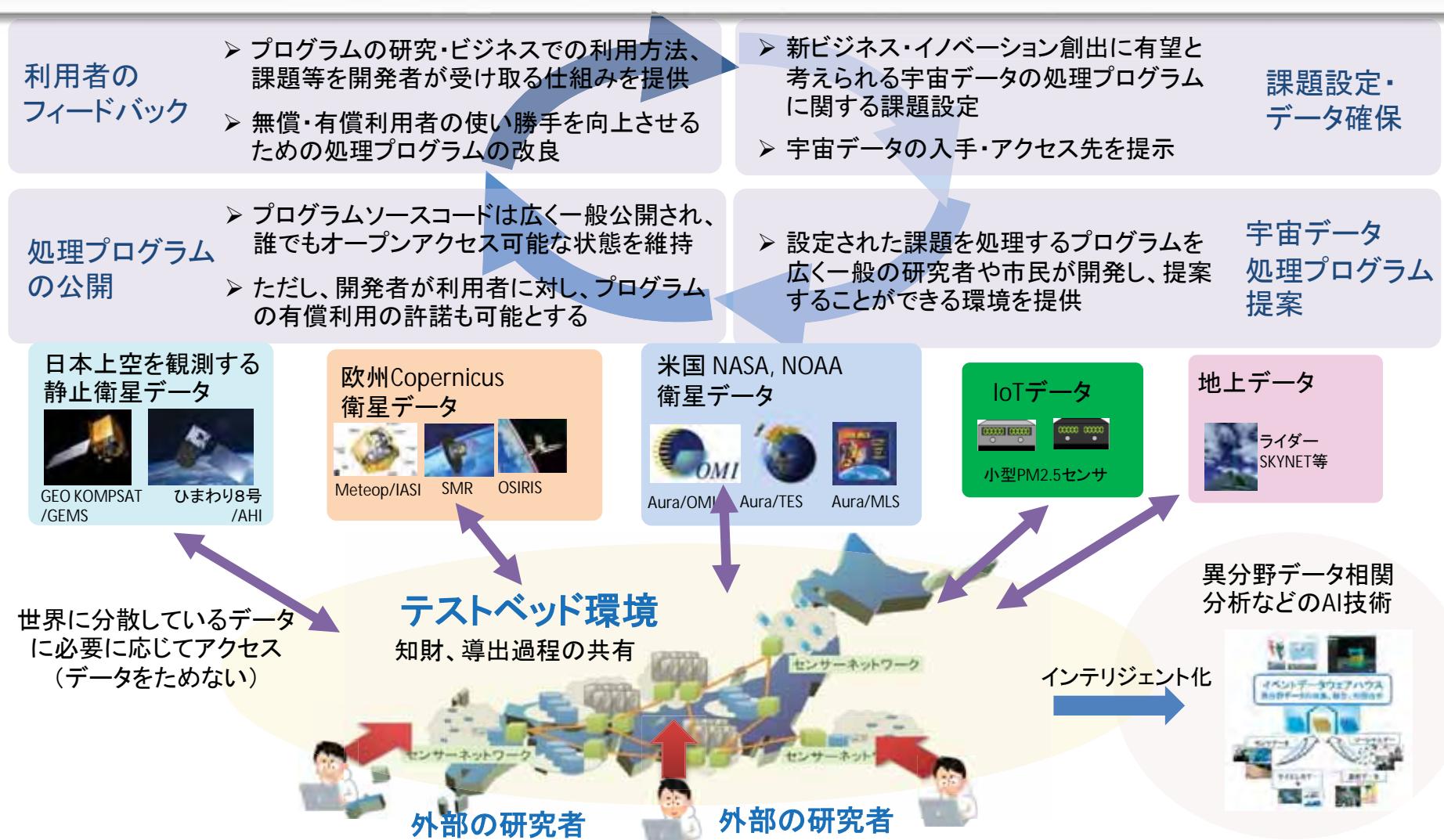
宇宙×ICT総合推進戦略(素案) ～実現方策に関する提言～

5つの基本原則



宇宙データ利活用推進戦略

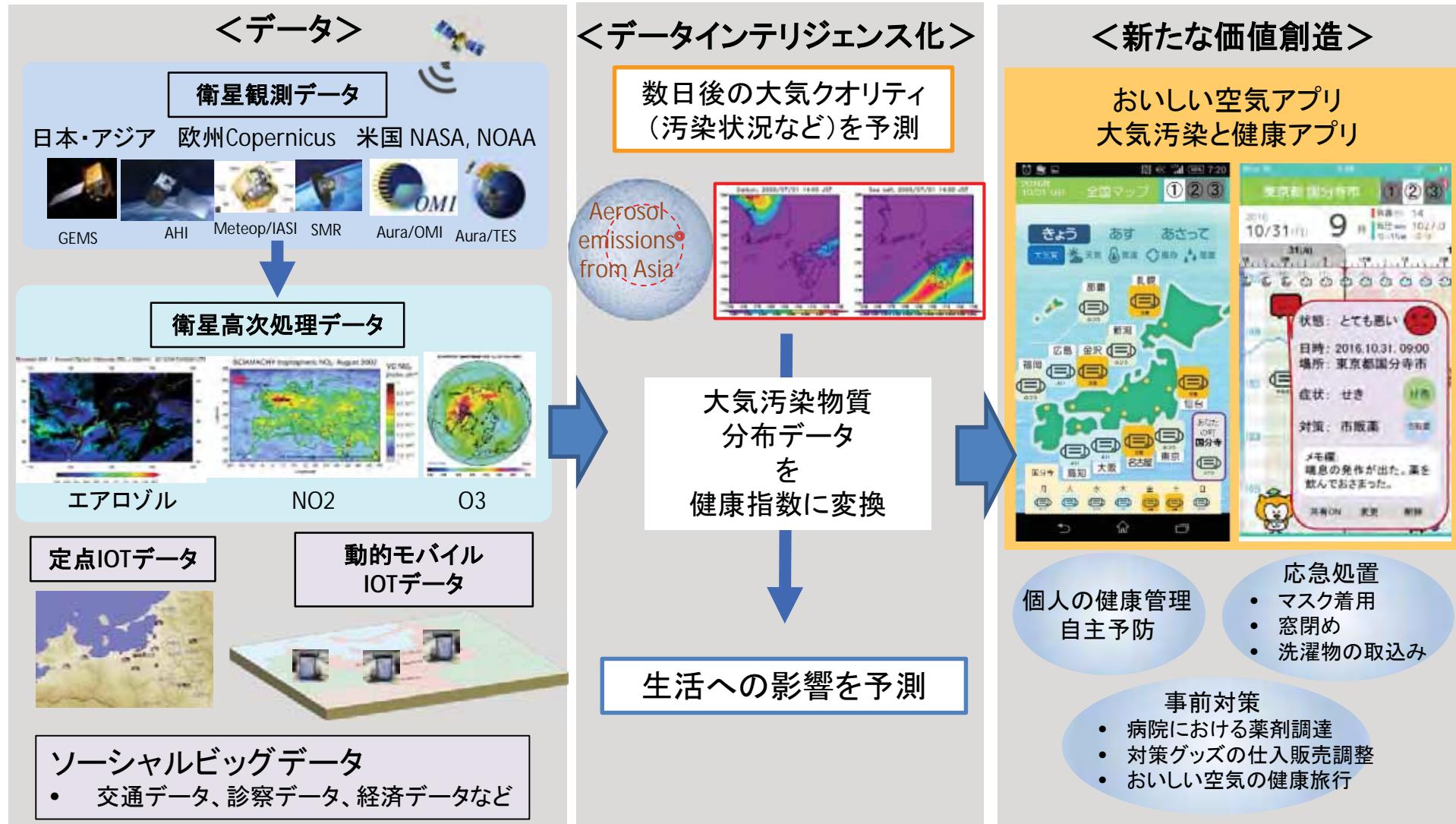
- ◆ NICTテストベッドを活用し、宇宙データと多様なデータを連携、処理するオープンな環境を提供。
- ◆ 市民サイエンスの仕組みで宇宙データの処理機能の提供と効果的な性能改善のエコシステムを構築。
- ◆ 本スキームの立ち上げ時においては、まず試行的に取り扱う宇宙データ、IoTデータの分野の絞り込みを行った上で、機能の具体的検証や課題・改善点の抽出を行うことが適当。



(参考) 宇宙データ×他のデータによる新たなサービス創出のイメージ

36

- 市民、自治体、企業、研究者等が参加し、地域の環境問題対策の集合知を形成
 - クラウドソーシングによるデータ収集(環境データ、被害データ等)とデータ高度化解析
 - 我が街に特化した予測モデルの研究開発
 - 皆で協力して課題を分析、対策を実施し、結果を共有。改善や横展開につなげる



宇宙データ利活用推進戦略の方向性について

宇宙産業ビジョン2030 社会モデル実証事業

＜衛星データを活用したモデル事業の推進＞
リモートセンシングデータや測位データ等の衛星データを活用した新たなソリューションによる効果(生産性、安全性、品質の向上等)を実証し、先進的な成功事例の創出を図りつつ、民間事業者が自立的に衛星データも用いたソリューション開発を行うきっかけとすべく、社会モデル実証事業を実施する。これまで宇宙産業に関わりの薄かったソリューション開発を担う非宇宙分野のIT事業者や、長期かつ大口のユーザとなり得る国や地方公共団体等が一体となって新たなアイデアを持ち込むことで、従来の宇宙関係者だけに閉じず、出口までを見据えた取組とする。

(中略)

本社会モデル実証事業の実施に当たっては、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省及びNICT、JAXA、AISTが一体となって、積極的かつ速やかに取組を開始することとする。

総務省データ利活用型 スマートシティ推進事業

総務省は、ICTを活用したスマートシティ型の街づくりを通じて、地域が抱える様々な課題の解決や地域活性化・地方創生を実現するため、「データ利活用スマートシティ推進事業」を実施



宇宙×ICTに関する懇談会 宇宙データ利活用推進戦略

NICTのテストベッドを活用し、宇宙データと地上系データ等を連携した新たなサービス、アプリケーションを創出を可能とするオープンな環境を提供。

テストベッド環境を通じて、非宇宙系企業、ベンチャー企業等に対するビジネスマッチングの機会を提供。



宇宙データ利活用推進戦略の方向性

- ◆ NICTテストベッドの活用による宇宙データ、地上系データを連携した新ビジネス・アプリケーション創出のためのオープンな環境の提供
- ◆ 関係府省、研究機関の連携による社会実証モデル実証事業への協力、推進
- ◆ 平成30年度から、衛星データやIoT/AI/BDデータなどの利活用により都市が抱えている課題の解決や地方創生を目指す自治体の取組を支援するため、ICTを活用したスマートシティ型の街づくりを推進する「データ利活用型スマートシティ推進事業」などの活用について検討する。
- ◆ 宇宙データ利活用の先進的な成功事例の創出を目指す